

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	通年	教室名	視聴覚室
担 当 教 員	有馬 那帆 早川 大輔	実務経験と その関連資格	医師として医療現場で従事している。			
《授業科目における学習内容》 身体の構造と機能のうち神経系の解剖、生理を学んでいく。疾患や障害の理解、リハビリテーション実施の基礎となるものである。 主に解剖学の教科書に沿い、それに一部生理機能を補いながら説明していく。内容は初めて習うことが多く、専門用語が多いので繰り返し復習することが大切である。						
《成績評価の方法と基準》 期末試験(筆記)100%で評定する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院)						
《授業外における学習方法》 教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。						
《履修に当たっての留意点》 履修する内容が多いので、1回1回の講義を大切にしていきたいと思います。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	神経系の基本的な構造が説明できる。(～P232)	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
		各コマに おける 授業予定	神経系総論①(神経系の区分、構成)			
第2回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	中枢神経系・末梢神経系の構成を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
		各コマに おける 授業予定	神経系総論②(中枢神経系・末梢神経系)			
第3回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	髄膜・脳室系の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
		各コマに おける 授業予定	中枢神経系①(髄膜・脳室系)			
第4回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	神経系の発生に関して説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
		各コマに おける 授業予定	中枢神経系②(神経系の発生)			
第5回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	脊髄の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
		各コマに おける 授業予定	中枢神経系③(脊髄)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	延髄の構造と機能を説明できる	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	中枢神経系④(延髄)		
第7回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	橋・中脳・網様体の構造と機能について説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	中枢神経系⑤(橋・中脳・網様体)		
第8回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	小脳の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	中枢神経系⑥(小脳)		
第9回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	大脳の構造と機能を説明できる①(P256～P263 大脳皮質機能 局在前まで)	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	中枢神経系⑦(大脳1)		
第10回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	大脳の構造と機能を説明できる②(P263～P267 大脳皮質機能 局在～)	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	中枢神経系⑧(大脳2)		
第11回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	神経路(伝導路)とその機能を説明できる。(P268～P271)	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	中枢神経系⑨(神経路1)		
第12回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	視覚の神経路、聴覚の神経路とその機能を説明できる。 (P271～P273)	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	中枢神経系⑩(神経路2)		
第13回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	平衡覚の神経路、味覚の新経路、嗅覚の神経路とその機能 を説明できる。(P273～P274)	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	中枢神経系⑪(神経路3)		
第14回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	下行性神経路とその機能を説明できる。(P274～P277)	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	中枢神経系⑫(神経路4)		
第15回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	神経系の解剖学的・組織学的構造および生理学的作用が説明でき る。 中枢神経系(脳および脊髄)や神経路の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	神経系総論・中枢神経系のまとめ		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	通年	教室名	視聴覚室
担 当 教 員	有馬 那帆 早川 大輔	実務経験と その関連資格	医師として医療現場で従事している。			
《授業科目における学習内容》 身体の構造と機能のうち神経系の解剖、生理を学んでいく。疾患や障害の理解、リハビリテーション実施の基礎となるものである。 主に解剖学の教科書に沿い、それに一部生理機能を補いながら説明していく。内容は初めて習うことが多く、専門用語が多いので繰り返し復習することが大切である。						
《成績評価の方法と基準》 期末試験(筆記)100%で評定する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院)						
《授業外における学習方法》 教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。						
《履修に当たっての留意点》 履修する内容が多いので、1回1回の講義を大切にしていきたいと思います。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	末梢神経系の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
		各コマにおける 授業予定	末梢神経系(脳神経及び脊髄神経)総論			
第17回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	脊髄神経系(頸神経)の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
		各コマにおける 授業予定	脊髄神経①(頸神経)			
第18回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	脊髄神経系(頸神経)の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
		各コマにおける 授業予定	脊髄神経②(頸神経)			
第19回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	脊髄神経系(胸神経、腰神経)の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
		各コマにおける 授業予定	脊髄神経③(胸神経、腰神経)			
第20回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	脊髄神経系(腰神経、仙骨神経)の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
		各コマにおける 授業予定	脊髄神経④(腰神経、仙骨神経)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	脳神経の構造と機能を説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	脳神経①			
第22回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	脳神経の構造と機能を説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	脳神経②			
第23回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	脳神経の構造と機能を説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	脳神経③			
第24回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	自律神経系の働きについて説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	自律神経系の働き			
第25回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	皮膚の構造と機能について説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	感覚器①(皮膚)			
第26回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	視覚器の構造と機能について説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	感覚器②(視覚器)			
第27回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	平衡聴覚器などの構造と機能について説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	感覚器③(平衡聴覚器、その他)			
第28回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	神経系・感覚器系の解剖学的・組織学的構造、生理学的作用が説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	神経系・感覚器系総括①			
第29回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	神経系・感覚器系の解剖学的・組織学的構造、生理学的作用が説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	神経系・感覚器系総括②			
第30回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	神経系・感覚器系の解剖学的・組織学的構造、生理学的作用が説明できる。		教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	神経系・感覚器系総括③			